

令和6年度政策形成実践研修（短期集中研究会） 事業提言書

グループ名： C

1. 事業名	
「来て、住んで、語って広野」	
2. 事業目的	
『交流・関係人口の増加とシビックプライドの醸成を図る。』 <ul style="list-style-type: none"> ・企業や町民と連携して、地域資源の掘り起こしを図る。 ・ふるさと納税の返礼品で町外への広野町の広報・PRを行う。 ・町が空き家の不動産仲介をすることで、お試し移住希や二拠点生活希望者に対応する。 ・町民同士の対話の場を通じて、コミュニティ意識やシビックプライドの醸成を図る。 	
3. 事業概要	
① 現状	<ul style="list-style-type: none"> ・震災を契機として、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない状況にある。 ・町として移住・定住促進の取り組みに力を入れているが、自治体間競争は激しい。 ・移住相談窓口があり、移住に向けたフォローアップ体制がある。 ・工業団地や産業団地を整備した企業誘致により地域雇用の拡大を図っている。 ・3歳から中学校までの給食費無償化など教育・子育てに力を入れている。 ・子育て世帯や若年夫婦世帯へ住宅用地開発や用地取得の補助金を出している。 ・電力関連や土木事業など地域雇用はあるものの、希望者が少ない。 ・世帯向けの住環境が乏しく、空き家活用や移住環境整備があまり進んでいない。 ・復興財源を活用し、工業団地や産業団地、住宅団地の整備、移住・定住に係る広報など実施できているが、今後、復興財源の縮小や少子高齢化による税収減少などが予想される。 ・ふるさと納税額は県内ワースト2位（2024年上半期）である。 ・町全体としてのコミュニティ意識（帰属意識）が希薄化している。 ・広野町の人が広野を誇りに思っていない、意外と町を知らない。 (町内から見た時と町外から見た時のギャップがある)
② 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化 / 人口減少による地域・集落維持困難、税収減少。 ・若年層 / 子育て世代の帰還や移住・定住が進まない。 ・地域資源の掘り起こしが十分にできていない。 ・広域的(浜通り/双葉郡全体)な連携不足。 ・広野町の魅力を知ってもらうような地域体験機会不足。 ・若年層 / 子育て世帯向け住宅が少なく、単身者向け住宅に集中している。 ・広野町民のシビックプライド(郷土愛や郷土への誇りなど)の醸成ができていない。 ・広野町民同士の交流 / コミュニティ形成促進の取り組みが少ない

<p>③ 事業内容 (対象)</p>	<p>【1】「来て」プロジェクト 広野町外在住者</p> <p>【2】「住んで」プロジェクト 空き家の持ち主、移住・定住希望者（お試し移住、二拠点居住希望等含む）</p> <p>【3】「語って」プロジェクト 町民、役場、学校、商店・飲食店、公共施設、民間企業、広野に関わる全ての人</p>
<p>④ 事業内容 (手段)</p>	<p>【1】～【3】までのものを縦軸に交流・関係人口増加をメインテーマに掲げ、徐々に関係度合いが深まっていくようなグラデーションで3つの小プロジェクトを提案する。これらを横断して、町全体で広報・PR活動を促進していく。</p> <p>【1】「来て」プロジェクト / ふるさと納税魅力化・交流人口増加 (広野町役場（産業振興課）・広野町観光協会) ふるさと納税の返礼品に体験型コンテンツを加えて、広野町の特別な体験を寄付者に提供することで“交流人口”の増加を目指すとともに、企業や町民と連携したコンテンツ開発により、地域活性化・シビックプライド醸成を図る。 ＜コンテンツ例＞ みかん・バナナ収穫体験、サッカー選手体験、地元民によるガイドツアー、とんぼのめがね米作り(稲作)体験、高倉山・五社山トレッキング、浅見川 SUP 体験、日本一の日の出、童謡のまち観光ツアー、震災復興視察（ホープツーリズム）…etc.</p> <p>【2】「住んで」プロジェクト / 遊休資産(空き家)活用、移住・定住促進 (広野町役場（復興企画課）、空き家所有者、まちづくり会社・不動産仲介業者) 移住検討者(夫婦・子育て世帯中心)向けの入居可能物件を整備する。広野町役場で空き家を一時的に(5年～10年程度)借り受け、電気・水道等の最低限のリノベーション(原状復帰義務はなしとする)をした上で、移住希望者にお試し移住住宅として転貸する。賃貸期間は最低1週間～最大6ヵ月で、その後、定住希望のため継続の場合は役場・空き家所有者と相談の上、賃貸・購入も可能とする。改修にかかった費用は役場が負担をし、賃貸収入によって補助金等以外でかかった経費を回収する。空き家は改修が一定予算内でできるもの以外のものは役場で借り受けしないものとする。</p> <p>【3】「語って」プロジェクト / シビックプライド醸成、コミュニティデザイン (広野わいわいプロジェクト、広野町役場（復興企画課）) 広野町で活動する100人を起点に人と人とをゆるやかにつなぎ、町のあり方や価値の再発見、多様なコミュニティづくりを目的とした“ひろの100人カイギ”と言う対話ワークショップを実施。毎回、広野町でおもしろい活動をしている5名のゲストの話を聞き、ゲスト含めた参加者で対話ワークショップを繰り返し広げる。ゲストが合計100名に達したら解散する。100人100様の暮らしに触れることで、広野町のいつもとは少し違った景色が見えてくる。</p>

<p>⑤ 現 行 事 業 と の 比 較</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町ふるさと納税寄付額は2023年度285万円と言う状況で、返礼品はコシヒカリ、西シェフ監修ハンバーグカレーなどのみで、選択肢が少ない。 ・町営住宅/アパートなどは単身世帯や地元民向けで応募資格要件や費用面などが移住希望者には厳しく、また、福島県復興公営住宅の間取りなどは夫婦・子育て世帯向けであるものの、入居要件が避難者対象となっているため、同様に厳しい。 ・空き家は増加傾向にあるものの、賃貸借希望で市場に出てくる物件の数は少なく、移住検討者が広野で住まいを探すことが難しくなっている。
<p>⑥ 他 自 治 体 の 導 入 事 例</p>	<p>【1】「来て」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県南島原市…民泊とふるさと納税の体験型返礼品を活用した観光施策。 ・山梨県小菅村 …「村まるごとホテル」をコンセプトに、空き家を宿泊施設に改修。 ・岩手県釜石市 …かまいしDMCと協働で、現地のなりわいを体験。 ・愛知県岡崎市 …まちの主要回遊動線上での公民連携プロジェクトを実施し、まちの活性化を図る「QRUWA戦略」 <p>【2】「住んで」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県梶原市 … 空き家をリフォームし、貸し出すことで、移住希望者が求める「すぐ住める家」を実現。 ・岩手県紫波町 … リノベーションまちづくり / 公民連携による空き家活用。 <p>【3】「語って」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県郡山市 … 郡山100人カイギ(https://100ninkaigi.com)
<p>⑦ 事 業 効 果</p>	<p>【1】「来て」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の掘り起こし。 ・町民協働によるシビックプライドの醸成。 ・ふるさと納税件数、寄付額の増加。 ・関係交流人口の拡大。 <p>【2】「住んで」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の社会増（特に一般世帯の増加）。 ・移住希望者が求める「すぐ住める」という条件をクリアすることで、一般世帯の移住機会損失の抑制。 <p>【3】「語って」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化。 ・町の価値を再発見することによるシビックプライドの育成、住民の地域定着。

⑧ 成果 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税申込増加件数 300 件、申込金額 1,200 万円 ・空き家改修件数 3 件、入居申し込み件数 3 件、住居購入件数 2 件 ・開催回数 20 回、イベント参加人数 20 人(各回)、参加満足度 70% (アンケート調査)
⑨ 成果 目標 の 検証 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税申込件数、申込金額 ・空き家改修件数、入居申し込み件数 ・イベント参加人数、開催回数、参加満足度 (アンケート調査)
4. 実施主体	
<p>【1】来てプロジェクト : 広野町、観光協会 ▶ “広野町 DMC” を設立</p> <p>【2】住んでプロジェクト : 広野町</p> <p>【3】語ってプロジェクト : NPO 法人ひろのわいわいプロジェクト、広野町</p>	
5. 実施スケジュール	
<p>【1】「来て」プロジェクト</p> <p>令和 6 年度</p> <p>1 2 月 現地調査</p> <p>令和 7 年度</p> <p>4 月 事務局設立</p> <p>6 月 事業開始 (返礼品受付開始)</p> <p>9 月以降 次年度の実施に向けた内容の磨き上げ</p> <p>【2】「住んで」プロジェクト</p> <p>令和 6 年度</p> <p>1 2 月 現地調査、利害関係者調整</p> <p>令和 7 年度</p> <p>4 月 空き家の募集</p> <p>5 月～9 月 電気・水道等のリノベーション</p> <p>8 月 住居希望者募集開始</p> <p>1 0 月 居住開始</p> <p>【3】「語って」プロジェクト</p> <p>令和 6 年度</p> <p>1 2 月 現地調査</p> <p>令和 7 年度</p> <p>2 月 住民説明</p> <p>3 月 参加者募集</p> <p>4 月 事業開始</p>	

6. 予算概要	
① 事業費	<p>【1】「来て」プロジェクト (500万円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画開発/運営費 500万円 <p>【2】「住んで」プロジェクト (1,000万円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居改修費 900万円(300万円×3軒) ・広報販促費 50万円 ・諸経費(備品購入等) 50万円 <p>【3】「語って」プロジェクト (250万円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート費 100万円 ・ゲスト謝礼費 100万円(1万円×5人(ゲスト)×20回) ・広報販促費 40万円 ・諸経費(備品購入等) 10万円
② 財源	<p>【1】来てプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般財源 ・ふるさと納税寄付金(4万円×300件の寄付を見込む) <p>【2】住んでプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住定住関連予算(復興庁) ・福島再生加速化交付金(帰還・移住等環境整備) ・賃貸収入 36万円(2万円×3件×6ヶ月) <p>【3】語ってプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般財源